

安全管理

－平成 23 年度クレーン年次点検報告－

技術部クレーン点検 WG

1 はじめに

今年度から、技術部クレーン点検WGでは、労務安全課で作成された大学規定の月次点検シートを使用し、使用記録簿への記載を徹底し稼働時間の把握に努めている。しかし、点検では、設置年数による消耗部品の経年劣化あるいは、走行レールなど高所で不安定な場所での判断の良・否および実施が困難な状況にある。そこで、年次点検は、専門知識がないことから工学部安全・環境保全委員会より、点検費の予算確保をしていただき、使用頻度の高いクレーンを対象に、専門業者による年次点検を実施したので以下に報告する。

2 年次点検結果

○自然科学研究科実験棟 I パルスパワー実験室

・東洋ホスト YH-20 ET-77 (定格荷重 2.0t)・立会者：吉岡 (技術部クレーン点検WG)

点検結果：巻上げ・横行・走行のマグネットスイッチが 1990 年設置当初からのものであり、今後、経年劣化によるスイッチの不良が発生する可能性が指摘。

○自然科学研究科実験棟 環境防災実験室

・東洋ホスト YH-28H ET-77 (定格荷重 2.8t)・立会者：戸田 (技術部クレーン点検WG)

点検結果：特に問題なし

○工学部研究実験棟 I 電気エネルギー実験室

・日立ホスト 2.8LS-TS55 (定格荷重 2.8t)・立会者：吉岡 (技術部クレーン点検WG)

点検結果：走行レールを固定しているフックボルトの一部に多少の緩みの指摘があったが、走行レール間のスパンが長いことが要因であり、今後の使用に際して問題は無いことが報告。

3 今後の活動

今回の年次点検では、経年劣化や高所点検部に対する不具合の指摘があった。今年度は、工学部安全・環境保全委員会にて、修理費用の一部を部局から負担していただけたことにより、指摘のあった経年劣化による不具合の修理を行った。このような、経年劣化および高所点検部の不具合は、経験豊富な点検者でなければ発見は難しい。年次点検の実施および修理箇所への早急な対応が安全衛生管理上、極めて重要であることや修理については高額な場合があるため、今後も継続した予算の確保を希望する。

また、一方で、経年劣化を見据えた長期的、且つ、計画的な対応策、クレーン使用者 (有資格者) および点検者の教育・訓練も同時進行で検討、実施する。

文責 技術部クレーン WG 戸田善統